

テント一週一文（と）

——「三陸の海を放射能から守る岩手の会」通信
『天恵の海』176号、177号

（承前）

ひどく心は傷つけられて、気の入らない返事を返した雰囲気が目の前にいる女性にも伝わったようで、突然、優しい声で「ワカメは好き？」と質問がきた。

「好きですよ。酢味噌で酒の肴にするのでしょ

う」

「味噌汁に入れるし、スープにもするわ」

「エッ、ワカメのスープですか！」

「そのワカメの美味しいところが三陸なのよ」と、私の驚きには何の反応もしない。

「福岡の志賀島じゃないのですか。私の家じゃワカメは志賀島と決まっていますがね」

「好きな所のワカメを食べればいいし、好きなように料理すればいいの。だからワカメのスープもあるわ。ワカメの味噌汁だって、ワカメ・ミソ・スープ、つまりワカメのスープでしょ

う」

「で？ ワカメの料理法を教えてくださいませんか？ テントには似合わないテーマですよ」

「先走りして言わないの！ 今からテントに似合うお話をするから。その三陸に「三陸の海を放射能から守る岩手の会」があ

って……」

「先走りしないでって言ったでしょ！ フクシマより前、2005年から……」と説明してくれた。

（女性の説明）

盛岡市の北西部に、医療用放射性廃棄物の処理場建設計画があり、それに反対する中で会の活動は始まったようよ。その後、青森県下北半島に建設されている六ヶ所再処理工場が操業すると、放射性廃液が流出し、三陸の豊かな海（いい？ 三陸はワカメだけじゃないのよ。魚だって有名よ）が海洋汚染にさらされるニュースが流れたのが2005年。

医療用放射性廃棄物の処理場建設の反対運動を進めていた人たちが、月1・2度の学習会を開始し、やがて「三陸の海を放射能から守る岩手の会」は生まれたの。2005年から12年間、学習会の回数は281回にもなるそうよ。出した通信の回数もすごい数よ。

「海の男、元気のいい人がたくさん居るのでしょ

うね」

「あなたが言っている「海の男、元気のいい人」っていうのは良くは判らないけれど、岩手県宮古市には「豊かな三陸の海を守る会」という別の市民運動もあるのよ。こちら六ヶ所再処理工場の放射能垂れ流しに反対して闘っているのだけど、この会は三陸の漁業者や住民によるグループよ」

「盛岡市と宮古市の二つの会が協力して六ヶ所の処理場問題を……」

「宮城県気仙沼市にも、岩手県陸前高田市にも、海を守る市民運動は色々な所にあるのよ」と、この女性も時々相手の言うことを途中でさえぎる癖がある。

「分かりました。もう一度、盛岡の「三陸の海を放射能から守る岩手の会」に話を戻しましょう」

「こちらは学習会中心のグループで、メンバーは 10 人前後だそうよ。出席者は数人のこともあれば、20 人ほどのこともあるのだけど、この問題は重大とか、これどうなっているのとか考える人が問題提起をして、みんなで話し合うのだから」

「「なずな」の渡辺さんのように核になる方がいらっしゃるのでしょうかね」

「この「三陸の海 岩手の会」には会長さんがいないのだから……」

「えっ、その会は別の会ですか？」

「あなたは小さいことに気がつくのね。会の名前が長いから簡単にしたのよ。同じ会のこと」

「分かりました、分かりました」

「何処まで話したのだから？ そうそう、よく参加する約 10 数人みんなが世話人。大切なのは、出てきた問題に対して一体何が出来るのか、具体的な方策を話して決めることだから」

「この会報『天恵の海』に連絡先が書いてあるじゃないですか。代表者かな？」

「ここに記載している S.Oshida さんは、ホラ書いてあるでしょう、会報編集事務局と。代表者は居ないけど、長いこと岩手の公害反対運動をリードしてきた元高校の先生のお宅を連絡先をしているらしいわ。永田さんっておっしゃる方だけど」

「会の趣旨は原発反対ですか？」

「それもあるけど、原発の後始末。とくに廃棄物の処理場のことを中心に取り上げているらしいわ。例えばね……」

(会員からのメッセージより)

再処理工場について 学ばば学ぶほどに、危険極まりないことに驚きました。最初は、再処理工場から流されるトリチウムなどの放射性廃液が原発では到底許されない高濃度で多量に流されることに驚かされました。そのアクティブ試験が実は不調で、プルトニウムやウランを回収した後の高レベル放射性廃液がガラス固化も出来ないという事態に陥っている事を知りました。廃液は崩壊熱を耐えず冷却し、発生する水素を掃気しなければ沸騰し過酷事故を引き起こしかねない危険極まりない液体です。それを知った私達は、慄然たる思いを抱き、シビアアクシデントを防ぐための運動を行っています。

「…… という風ね」

「「原発＝トイレなきマンション」のトイレの問題を種々指摘している団体ってことなの？」

「あなた、気楽にトイレの問題ですねって言うけれど、1 万年も 10 万年も続く問題なのよ」

「お言葉を返すようですが、あなたも気楽に 1 万年、10 万年っておっしゃいますが、1 万年と 10 万年は相当違うのではないですか？」

「数字の上では相当違うわ。でも想像できないくらい遠い未来という点では同じなの。そんな遠くの未来に課題を残し続けるのが原発であり、廃棄物処理の問題なのよ。未来って言っても1万年先にその問題が現れるっていうわけじゃないのよ。今からズツと、ズツと、毎日毎日現れ続ける問題よ。日本はそうしたことに目をつぶっているのが現実よ」と、こういうテーマになると語気に力が入る方ようです。

「あなたに語気を強めても仕方ないわね」と、つい力が入ったことをご自分でも気がついているようです。

「「岩手の会」の方は……」と、この方は自分で勝手に会の名前をさらに短くして、続けます。「危機感をヒシヒシと感じていて、日本全国の心ある人に呼びかけているの。こんな風に」

(会員からのメッセージより)

私達は 六ヶ所再処理工場の危険性を知りその撤退を訴えています。使用済み核燃料からプルトニウムとウランを回収し再利用するという化学工場は、現在、ガラス固化も出来ず、多量の『高レベル放射性廃液』を貯めて危険な状態にあります。

何故危険かという、液体状で存在する途方もない量の放射性物質が、冷却が出来なくなれば崩壊熱で高熱を発生し、掃気をやめれば水素がタンクに充満し、沸騰・爆発する危険があるからです。電源を失ったり、大地震や津波に襲われれば、日本列島を巻き込む過酷な大事故もあり得ます。原発反対を訴えるとともに、この再処理工場の危険性についても、目をそらさず、監視し、反対の声を挙げてほしいものです。

「この会報 177 号にもそれを書いているのですか」

「176号と177号は、DAYS 救援アクションが4月30日に行った広瀬隆さんの講演会の報告よ。この会報にも書いてあるのだけれど、<http://sanriku.my.coocan.jp/> がホームページで、そのページの右側の枠の中「基本的な参考資料」を右クリックすると、今までの会報のバックナンバーがみんな読めるのよ」

「すごいですね」

「あなたは時間があるでしょうから、会報のうちどれに廃棄物処理のことが書いてあるか調べて、私に教えてちょうだい」

「ちょっと待ってくださいね、ツと」

「若い人はいいわね。すぐタブレットで調べられるから」

「お年寄りも調べられますよ、ツと。ワッ、ありました、ありました。でもこの会の会報のテーマはみんな六ヶ所再処理工場、放射性物質汚染……じゃないですか」

「みんなってことはないけれど、そういう記事が多いわね。いい勉強になるわ。読んでおいて」

「私も時間はないのですよ……」

「そう？ そうは見えないけど。最後に「岩手の会」の方からのメッセージを宜しくね」

(会員からのメッセージより)

地震国日本で 原発を再稼働する、高レベル放射性廃液を貯めたままにしておくなどは、常識では考えられない危険な行為です。その事を無視し、安全であるかのように言う、非科学的な認識（安倍自民党政府の発言・・・「福島事故原発は安全にコントロールされている」など）の先には大きな悲劇が待っています。

事実にも目を背けず、危険を知った人から、まず声を出してゆきましょう。

「お帰りになるのですね！」

「今日は少し時間があるのよ」

「ア、そうですか……。フ～」

(以下次号)

(文責 栗山次郎) 2017年7月3日公開

[『天恵の海』176号\(2017年5月17日刊\)](#)

[『天恵の海』177号\(2017年5月18日刊\)](#)

[『天恵の海』181号\(2017年9月16日刊\)](#)

[『天恵の海』182号\(2017年9月17日刊\)](#)